

二〇二二年一月一日(参加者二〇名)

九条葱たつぷり入れて鍋うどん  
コロナ禍の故郷遠し冬銀河  
就農は五年目と葱くれにけり  
山盛りに葱ラーメンや農家カフェ  
庭師らの弁当に出す根深汁  
藁屋根の散らばる谷戸の冬銀河  
好物の葱焼き供へ夫偲ぶ  
手作りの葱ぶら下げて友来たる  
根深葱頭でてをるエコバッグ  
風邪の吾に葱たつぷりの鍋料理  
書淫の目休ませてをる冬銀河  
吾も星となる日のあらむ冬銀河  
葱なくて代用品の見つからず  
薬味とは思へぬほどに葱を乗せ  
下宿屋の小さき窓にも冬銀河  
葱きざむ夫の包丁リズム良し  
掘りたての土付き葱のお裾わけ  
子には子のそれぞれの夢冬銀河

わかば  
満天  
素秀  
かかし  
うつき  
隆松  
はく子  
こすもす  
なおこ  
せいじ  
小袖  
よう子  
うつき  
明日香  
せいじ  
もとこ  
豊実  
もとこ

冬銀河一つは夫の星ならむ  
カーテンは閉めずにをかむ冬銀河  
父のこと遠い記憶や冬銀河  
点滅の飛機の紛るる冬銀河  
水平線へ垂るる離島の冬銀河  
愛犬の星はどのへん冬銀河  
大原の入り日に染まる葱畑  
厄神道日向の葱の青々と  
父母の星あひ寄り添へる冬銀河  
冬銀河ジョバンニの旅思ひけり  
冬銀河郷関出でて半世紀  
指差して吾妹と仰ぐ冬銀河  
つつかけで夕餉の葱を庭に引く  
みづき  
こすもす  
わかば  
素秀  
素秀  
ぼんこ  
みづき  
宏虎  
なつき  
もとこ  
小袖  
智恵子  
なつき

WEB句会みのる選・二〇二二年一月一日